文化

新 なら 民俗通信 13 松田 度

続・岸田日出男の遺したもの

地道作業で遺産復元

「吉野熊野国立公園の父」と呼ばれた岸田日出男（一八九〇～一九五九）については、二〇一八（平成三十）年七月の「なら民俗通信」276でも紹介した。今回は、彼が遺した「近現代の歴史資料」（以下、岸田資料）について、トピックス的にとりあげてみたい。

思い返すと、大淀町北六田の岸田家にお邪魔し、資料の整理を始めたのは、二〇一六年の歳末だった。そして二〇一八年一月、岸田家から大淀町へ寄贈をうけ、奈良教育大学の協力で約四千件のリストができている。

世を揺るがすコロナ禍のもとでも、岸田資料の整理は続いている。とりわけ優先して調査・整理を進めているのが、映画フィルムと標本類、そして古文書類である。

▼映画フィルムのもつ価値

岸田資料のうち、大正・昭和初期の三五ミリフィルム（四巻）は、今年八月、大淀町の指定文化財となった。奈良県に残る最古の映像記録であり、町内ではもちろん、県内で自治体の指定文化財となったフィルム第一号である。映画フィルムのもつ価値は計り知れない。

ところで、指定文化財に

顕彰碑の前で思い出を語るオニ雅（記録映像「岸田日出男顕彰碑除幕式」より　大淀町教育委員会提供）

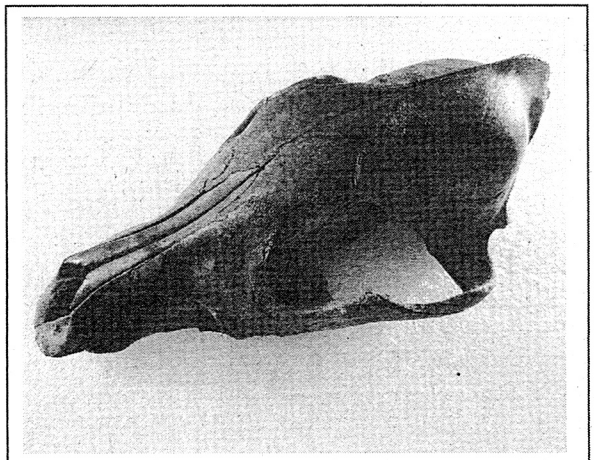
はならなかったが、一九六一（昭和三十六）年十一月五日、山上ヶ岳付近（天川村）で撮影された「岸田日出男顕彰碑除幕式」の記録映像も見どころが多い。

壁面いっぱいに絵馬が飾られた大峯山寺のようす、日出男の盟友・岡田雅行（通称〈オニ雅〉一八八六～一九七〇）の山伏姿も印象的だ。オニ雅は、奥吉野の名峯・釈迦ヶ岳の山頂に、高さ三・六㍍の鋳銅の釈迦像を、たった一人で担ぎ上げた伝説の強力（ごうりき）である。また、薬師寺の名僧として知られた高田好胤（一九二四～一九九八）が、行場で修行する珍しい姿も撮影されている。これらの映像は、いずれもデジタル化され、大淀町の公式ユーチューブチャンネルで公開中なので、ぜひご覧いただきたい。

奈良県内には、五十年あるいは百年以上前の映像を残したフィルムが、まだ眠っているはず。今はそれらを一堂に集めてデジタル化し、調査・研究を重ねて随時公開していく、「奈良映画アーカイブ」のようなプロジェクトを構想している。

▼ニホンオオカミの謎に迫る

標本類のうち早くに注目されていたのが、絶滅動物であるニホンオオカミの頭骨（上顎骨〈じょうがくこつ〉）だ。いつどこで、どんなふうに日出男が入手したのか。その来歴が詳しく分かってきた。



ニホンオオカミの頭骨（大淀町教育委員会提供）

彼がオオカミの頭骨を入手したのは、一九三九（昭和十四）年六月二十日、吉野郡上北山村西原天ヶ瀬の民家でのこと。「民家」の主は天ヶ瀬在住の岩本きち（当時八三歳）。資料整理の折、オオカミの頭骨の写真（一九四〇年七月二十二日撮影）に鉛筆書きのメモを見つけた。そこには日出男の字で、「岸田にある日本狼の写真　明治十六年（一八八三）吉野郡上北山村西原天ヶ瀬の民家へ小便を飲みにきた病気の狼の骨（頭）蓋骨」と書かれていた。病気のオオカミが、塩分欲しさに民家へ下りてきたのだろうか。

この頭骨は二〇一九年五月、DNA鑑定の結果、正真正銘のニホンオオカミであることが分かった。現在、CTスキャンデータを用いた分析が進められている。現代人には未知の生物・ニホンオオカミの謎が、この頭骨のもつデータから少しずつ解けだそうとしている。

▼山村のアーカイブ（記憶遺産）

日出男は戦後、奈良県職員を辞し、森林伐採や大規模な植林、水力発電用ダム建設といった戦後開発のなかで、自然保護活動に身をおき、紀伊半島の民俗・伝承に強く関心を寄せ、各地を訪ね、膨大な聞き取り調査をおこなっている。

岸田資料のうち、古文書（原本）については二〇二〇年五月、岡島永昌氏（王寺町文化財学芸員）の助力で一七五点をリスト化できた。個々の古文書については、大淀古文書文化研究会のメンバーによる翻刻作業が続けられている。そのなかに、吉野郡南部の北山郷で語り継がれてきた「由緒書」の調査記録がある。

日出男は、上北山村・下北山村地内で一九四七・四八（昭和二十二・二十三）年に発見した複数の「由緒書」を翻刻・編集し、一九四九年に手書きのガリ版刷り（謄写版）の冊子『北山由緒書』を刊行した。彼は同書で「北山郷の来歴を記せる驚くべき古文献であり、これによって北山郷の由緒をつぶさに知る事が出来る極めて貴重なる記事である」と述べている。学史的にも重要な冊子だが、謄写版で読みづらいうえ刊行部数も少ない。いずれ復刻版を作る必要があると感じている。

こんな話もあった。電話の主は、ひっそりと咲く一本桜（牛繋〈つなぎ〉の桜）で有名な、宇陀市榛原の山村、諸木野出身の女性。その桜は女性の祖父と日出男が植えたと話された。初めて聞いた諸木野の桜の由来と、女性の胸の内に仕舞われていた記憶。あらためて岸田資料をみると、女性の祖父から日出男に宛てた手紙が一通あった。記憶をつなぐ貴重な一通である。

岸田資料を整理するということは、時代の波にのまれ、忘れられていった山村のアーカイブ（記憶遺産）を、彼の遺した資料から復元していく地道な作業でもある。

（まつだ・わたる＝大淀町教育委員会学芸員）